

mRNAワクチン陰謀論

志村 良知

新型コロナで日本の高齢者が接種しているワクチンはmRNAワクチンという。通常のワクチンは、ウィルスや細菌の毒素ないし本体を安全なまでに弱めたものを接種して、つまり軽く感染させて免疫を獲得する。これに対してmRNAワクチンは、病原体の一部の複製情報を人体のDNAに直接伝えて複製させ、その複製されたものに対する免疫を獲得しようというものだ。研究そのものは30年くらいの歴史があり、遺伝子操作で作るので短期に安価に大量にできる。それ故に今回きわめて短期日での数十億人への接種が可能となった。

mRNAのmはメッセンジャーすなわち伝令の意味で、今度のものはウィルスが人間にとりつく時の武器であるとげとげ＝スパイクだけを作れという情報を伝える。情報を受け取ったDNAは、アミノ酸を組み合わせてウィルスのスパイクだけを作る。ウィルス本体を作れという情報は無いので感染はしないが、体中に異物であるスパイクが作られ、免疫系がそれに反応し、先兵である免疫抗体のみならず、指揮官の免疫T細胞まで総動員してスパイクを無力化する免疫を獲得する。情報を伝え終わったmRNAはアミノ酸に分解されDNA本体に影響することはなく、消えてしまえばDNAはスパイクを作れない。

こんな革命的なワクチンを一気に何十億人にも投与しようというのだから、研究者の間でもまだ緒論ある。それに乗じて批判派の学者の論をでたらめに増幅して、人類の破滅と煽る者たちがいる。世の人が負の方向に敏感な「遺伝子操作」という言葉を多用し、DNAとRNAの構造や働きの違いは完全無視した論理で人体を遺伝的にボロボロにするものだと断定する。欧米での治験や実績は無視して、ワクチンとして効果はなく、製薬会社と投資家たちの陰謀であると断ずる。

同じ陰謀論屋のジャーナリストもどきたちは、国際関係や政治、環境問題などでも戯言を並べたてる。煽情的であれば事実などどうでもよいのである。